

(様式 17)

## 学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 趙 文 静

審査担当者 主査 教授 荒戸 照世  
副査 教授 大滝 純司  
副査 教授 玉腰 暁子  
副査 教授 生駒 一憲

### 学 位 論 文 題 名

**Gait speed, daily walking and all-cause mortality in the younger-elderly Japanese:  
a cohort study**

(日本の前期高齢者における歩行速度、日常的な歩行習慣とその後の死亡: コホート研究から)

これまで歩行速度は人々の機能低下とその後の死亡を予測する信頼できるスクリーニング方法であることが示されてきた。しかし、日本からの報告は未だ少なく、大部分の対象者には虚弱な高齢者が含まれている等、身体活動を考慮した研究は少なかった。そこで、申請者は、研究1で、日本の前期高齢者(65-74歳)において、歩行速度が遅いほど総死亡のリスクが増加すること、男性においてこの傾向が顕著であることを明らかにした。この結果を踏まえ、研究2では、前期男性高齢者を対象として重大な疾患(心疾患、脳血管疾患、または癌)の既往歴有別に日常的な歩行習慣と総死亡の関連を検討し、日常的な歩行習慣は死亡リスク減少と関連があることを明らかにした。

審査において、副査の大滝教授から結果の新規性と適用性、限界を解決するための研究計画、玉腰教授から NISSIN プロジェクトにおいて申請者が果たした役割、母国帰国後の研究計画、生駒教授から自己申告の歩行速度と客観的な測定値の間の比較、死因、心血管フィットネスについて、主査の荒戸教授からは、高齢女性において1日の歩行時間が1時間以上の場合、歩行速度が遅い者において死亡リスクの増加と関連していた理由、心疾患、脳血管疾患、または癌等の具体的な死因別解析、感度分析における対象者の妥当性についての質問があった。申請者は自身の研究結果や先行研究を引用し、これらの質問におおむね適切に回答した。

この論文の一部は、既に英文国際誌に掲載されており、この結果は、今後、高齢化社会において定期的な歩行習慣を日常生活に取り込み積極的なライフスタイルを保つために貢献することが期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せて、申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。